

エ 医療機関

(ア)【一般小児医療】の機能を担う医療機関

- 一般的な小児医療に必要とされる診断・検査・治療を実施すること。

(イ)【初期小児救急】の機能を担う医療機関

- 平日昼間や夜間休日における初期小児救急医療を実施すること。
- 緊急手術や入院等を要する場合に備え、対応可能な医療機関と連携していること。

(ウ)小児地域支援病院

- 原則として入院病床を設置し、必要に応じて小児地域医療センター等へ紹介すること。
- 在宅小児の緊急入院に対応できること。

(エ)【小児専門医療】の機能を担う医療機関

- 高度の診断・検査・治療や勤務医の専門性に応じた専門医療を行うこと。
- 一般の小児医療を行う医療機関では対応が困難な患者や常時監視・治療が必要な患者等に対する入院診療を行うこと。

(オ)【入院小児救急】の機能を担う医療機関

- 小児科医師や看護師などの人員体制を含めて、入院を要する小児救急医療を24時間365日体制で実施可能であること。
- 一般の小児医療を行う医療機関と連携し、地域で求められる入院を要する小児救急医療を担うこと。

(カ)【高度小児専門医療】の機能を担う医療機関

- 小児地域医療センター等との連携により、高度専門的な診断・検査・治療を実施し、医療人材の育成・交流などを含めて地域医療に貢献すること。

(キ)【小児救命救急医療】の機能を担う医療機関

- 小児地域医療センターからの紹介患者や重症外傷を含めた救急搬送による患者を中心として、重篤な小児患者に対する救急医療を24時間365日体制で実施すること。
- PICU（小児の集中治療室）の運営を含め、小児の集中治療を専門的に実行できる診療体制を構築することが望ましい。

(ク)障がい児や医療的ケア児の療養・療育支援の機能を担う医療機関

- 医療的ケア児及びその家族への支援体制の構築を行うこと。

評価指標

1 目指す姿の進捗に関する数値目標

目指す姿の達成に向けた進捗状況は、以下の指標により検証します。

<全体目標>

番号	分野アウトカムに関する指標	現況値 (調査年)	出典	目指す 方向性	目標値 (目標年)
A1	乳児死亡率(出生千対)(直近3年平均)	2.43 (R4年)	人口動態統計	↘	1.77 (R11年)
A2	乳幼児(5歳未満)死亡率(人口千対)(直近3年平均)	0.56 (R4年)	人口動態統計	↘	0.42 (R11年)
A3	小児(15歳未満)死亡率(人口千対)(直近3年平均)	0.22 (R4年)	人口動態統計	↘	0.17 (R11年)

※A1～A3は各保健所単位で3年間平均値のモニタリングを行います。

2 課題に関する取組の進捗に関する数値目標

課題に対する取組の進捗状況を検証するための指標は、本節の最後をご覧ください。

第11節 小児医療

	アウトカムに関する指標	現状		目指す方向性	目標		出典
		現況値	調査年		目標値	目標年	
<全体目標>							
A1	乳児死亡率（直近3年平均）（出生千対）（※1）	2.43	R4年	↓	1.77	R11年	人口動態統計
A2	乳幼児（5歳未満）死亡率（直近3年平均）（人口千対）（※1）	0.56	R4年	↓	0.42	R11年	人口動態統計
A3	小児（15歳未満）死亡率（直近3年平均）（人口千対）（※1）	0.22	R4年	↓	0.17	R11年	人口動態統計
<地域・相談支援等>							
B101	乳幼児の救急搬送の軽症（外来診療）率	78.7%	R1年	-	(※2)		救急・救助の現況（消防庁）救急編
C101	小児の受入の照会を行った回数が4回以上の割合	3.0%	R1年	↓	1.7%	R11年	救急搬送における医療機関の受入状況
C102	現場滞在時間が30分以上の割合	4.0%	R1年	↓	3.0%	R11年	救急搬送における医療機関の受入状況
C103	#8000の相談件数（年間合計）	11,377件	R4年度	↑	12,000件	R11年	小児救急医療電話相談事業実績
C104	#8000の応答率（年間平均）	88%	R5.4~R5.9	→	88%	R11年	小児救急医療電話相談事業実績
<一般小児医療・小児地域支援病院>							
B201	小児傷病者搬送人員（転院を除く）のうち、全事案の受入れに至らなかった割合	24.5%	R1年	↓	18.9%	R11年	救急搬送における医療機関の受入状況
B202	小児のかかりつけ医受診率（算定回数編）	7.23%	R3年	-	(※3)		NDB
C201	小児科医師数（人口10万対）	11.7人	R2年	↑	13.4人	R11年	医師・歯科医師・薬剤師統計
C202	小児科を標榜する病院・診療所数	81施設	R2年	→	81施設	R11年	医療施設調査
C203	夜間または休日の小児科診療を実施している自治体数	10市	R5年	↑	13市	R11年	医療情報ネットほか
C204	乳幼児の救急搬送の軽症（外来診療）率【再掲】	78.7%	R1年	-	(※2)		救急・救助の現況（消防庁）救急編
C205	小児医療圏ごとのリエゾン数（県北）	13人	R5.10	↑	15人以上	R11年	災害時小児周産期リエゾン委嘱状況
C206	小児医療圏ごとのリエゾン数（県中）	4人	R5.10	→	3人以上	R11年	災害時小児周産期リエゾン委嘱状況
C207	小児医療圏ごとのリエゾン数（県南）	2人	R5.10	↑	3人以上	R11年	災害時小児周産期リエゾン委嘱状況
C208	小児医療圏ごとのリエゾン数（会津・南会津）	1人	R5.10	↑	3人以上	R11年	災害時小児周産期リエゾン委嘱状況
C209	小児医療圏ごとのリエゾン数（相双）	1人	R5.10	↑	3人以上	R11年	災害時小児周産期リエゾン委嘱状況
C210	小児医療圏ごとのリエゾン数（いわき）	2人	R5.10	↑	3人以上	R11年	災害時小児周産期リエゾン委嘱状況
C211	小児地域医療支援病院数	2施設	R5年	→	2施設	R11年	-
<小児地域医療センター>							
B301	小児傷病者搬送人員（転院を除く）のうち、全事案の受入れに至らなかった割合【再掲】	24.5%	R1年	↓	18.9%	R11年	救急搬送における医療機関の受入状況
C301	小児地域医療センター数	4施設	R4年	→	4施設	R11年	-
C302	小児地域医療センターにおける小児救急患者入院数（1施設あたり）	340件	R5年	-	(※4)		小児（二次・三次）救急医療提供体制調べ（厚生労働省）
C303	小児地域医療センターにおける小児救急自動車搬送受入数（1施設あたり）	545件	R5年	-	(※4)		小児（二次・三次）救急医療提供体制調べ（厚生労働省）
<小児中核病院>							
B401	小児傷病者搬送人員（転院を除く）のうち、全事案の受入れに至らなかった割合【再掲】	24.5%	R1年	↓	18.9%	R11年	救急搬送における医療機関の受入状況
C401	PICU病床数	6床	R5年	→	6床	R11年	-
C402	PICU延べ患者数	38人	R2年	→	38人	R11年	医療施設調査
C403	小児中核病院における小児救急患者入院数	281件	R5年	-	(※4)		小児（二次・三次）救急医療提供体制調べ（厚生労働省）
C404	小児中核病院における小児救急自動車搬送受入数	381件	R5年	-	(※4)		小児（二次・三次）救急医療提供体制調べ（厚生労働省）
<障がい児や医療的ケア児の療養・療育支援>							
B501	医療的ケア児が利用可能な訪問看護事業所数	65施設	R5年	↑	80施設	R11年	福島県保健福祉部調べ
C501	小児の訪問診療を実施する診療所・病院数	0施設	R3年	↑	6施設	R11年	NDB
C502	医療的ケア児等コーディネーター配置市町村数	15市町村	R5.4.1	↑	59市町村	R11年	福島県保健福祉部調べ
C503	小児科医師数（人口10万対）【再掲】	11.7人	R2年	↑	14.3人	R11年	医師・歯科医師・薬剤師統計

(※1) 各保健所単位で3年間平均値のモニタリングを行います。
 (※2) 救急搬送の軽傷率の適正状態の判断が困難なためモニタリング指標とします。
 (※3) 今後の国の動向を注視するためモニタリング指標とします。
 (※4) 適切な基準設定が困難なためモニタリング指標とします。